

# 川端の暮らし

山里



## 水はどこから来るの

針江に流れる川を遡って行くと、朽木のブナの原生林にたどり着きます。中央分水嶺といわれるあたり。一滴の水が山肌にしみこみ、小さな流れとなり、あるいは伏流水となり湧き出て、長い歳月をかけて海までたどり着きます。この長い水の流れの中に、針江の「生水(しょうず)」と「川端(カバタ)」があります。



### ■おしよらいさん

お盆の日に行われる精霊祭り「おしよらいさん」。お盆に迎えた「御精霊(おしよらい)」を、川に石を積んだ川原地蔵を作って送り出します。



### ■たなかみさまの供え物

たなかみさまは、冬が始まるころにおこなわれる豊作を願うお祈りです。「山の神様がやってきて、田んぼの神様と結婚すると豊作になる。」山と里が、水の流れによるつながりを大切にしていることがたなかみさま(田の神様)の言われからも受け継がれています。



写真提供/針江 生水の郷委員会

### 針江大川は絶好の遊び場

川底には梅花藻が繁殖しています。アユやハヤはもちろん、ピワマスも上ってくる場合があります。夏になると針江大川は、川下りをする子どもたちの遊び場となります。

針江(里)



## 川端(カバタ)ってどんなところ

湧水のことを針江では「生水(しょうず)」と呼び、各家々にはこんこんと生水が湧き出す場所「川端(カバタ)」があります。そこでは、野菜や穀物を洗ったり、果物を冷やしたり…、夏場はちょっとした冷蔵庫の代わりにもなります。

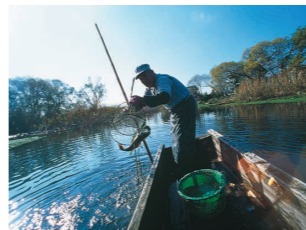


びわ湖(里湖)



## もんどり漁をする漁師

「おかず獲り」という伝統漁で、職業ではなく、晩のおかずのために漁に出ることを言います。おもに網やかごを使って漁をします。



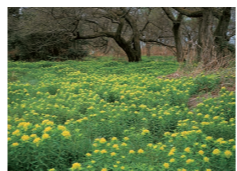
写真提供/新旭土地改良



ヨシ刈り

### 田んぼとヨシ帯は生き物のゆりかご

人の手が加わることで、生き物にとって暮らしやすい環境が守られています。コイやフナが上り産卵する田んぼづくり、生き物たちの生育場所となる針江浜のヨシ帯を守る活動…。人と生き物を潤す環境づくりが進められています。



### ■ノウルシ群生地

ノウルシは、人とヨシの暮らしにあわせて生きている代表的な植物です。ヨシ刈りをして焼かれたところのあちこちにたくさん芽生え、ヨシの背が高くなるまでのほんのつかの間に花を咲かせます。

河川

## 水のつながりは、人のつながり

私たちの使った水は、どこからやって来て、どこに行くのでしょうか。分水嶺、棚田、カバタ、内湖…。高島のいろいろな里をめぐり、母なる湖へとめぐる水。この水の流れには、上流と下流のつながりがあり、生き物たちもまた貴い生命のつながりを見せてくれます。そして、針江には、当たり前暮らしの中に、人のつながり、生き物たちとの共存を大切に「カバタ文化」がありました。「水のつながり」をたどると、未来の「人と人、人と自然とのつながり」が見えてくることになるのです。



### 水の旅、150km

流路延長約150km。丹波高地を源流とする安曇川は、高島の山々の水を集め、琵琶湖へ。そして淀川から大阪湾につながります。

#### 参考・引用

- 針江 生水の郷委員会パンフレット
- 「みずが湧き出すまち 針江」/編集：NPO法人 En
- 「とりもどせ!琵琶湖・淀川」/原風景』西野麻知子編著 (淀川河川事務所ホームページをもとに作成)
- 写真提供のクレジットがないものについては全て今森光彦撮影

